

# 平成18年度事業報告

自 平成18年4月 1日

至 平成19年3月31日

## I. 鑄造業関連経済動向

### 1. 全体景況

政府発表によれば、平成18年度の我が国経済は、18年11月には戦後最長といわれたいざなぎ景気を超える58ヶ月の景気回復を続けている。企業部門の好調さが、雇用・所得環境の改善を通じて家計部門へ波及しており、民間需要中心の回復が続くと見込まれる。

こうした結果、平成18年度の国内生産の実質成長率は、1.9%程度（名目成長率は1.5%程度）になると見込まれる。

### 2. 鑄造業界

- (1) 鉄鑄物の平成18年の生産は5,207千トンとなり、需要の約6割を占める自動車用鑄物をはじめ、建設機械や工作機械などの産業機械用鑄物の高い生産を反映して平成17年に続いて2年連続500万台を維持し、4年連続して対前年比プラスとなった。
- (2) 特に、銑鉄鑄物は4,425千トン（対前年比102.9%）となり、平成14年7月から前年同月比プラスを54ヶ月（平成18年12月現在）連続しており、3年連続して400万台を継続した。生産金額も8,299億円（対前年比105.2%）と53ヶ月連続して対前年同月比プラスとなっている。精密鑄造品も472億円と3年連続して対前年比プラスとなった。このように、ユーザー業界の好調さに牽引されて増産傾向が続いているが、ピーク時と比べると80%程度の回復に留まっている。
- (3) 原材料動向を見ると、鑄物用銑鉄、コークスなどの原材料価格は依然として高止まり状態となっているなかで、スクラップは18年初頭から値上がり傾向を続け、さらに原油価格の高騰を反映して副資材も大幅な値上がりとなっている。このため、依然として利益無き繁忙状況が継続しており、原材料等コスト増の転嫁が大きな課題となっている。

（単位：千トン、%）（単位：百万円、%）

年	合計	銑鉄鑄物	鑄鉄管	可鍛鑄鉄	鑄鋼	精密鑄造品
13	4,548(92.1)	3,632(90.8)	564(97.2)	93(94.9)	259(98.1)	49,305(104.7)
14	4,391(96.5)	3,602(99.2)	477(84.6)	80(86.0)	232(89.6)	44,930(91.1)
15	4,702(107.1)	3,803(105.6)	583(122.2)	81(101.3)	235(101.3)	39,742(88.5)
16	4,890(104.0)	4,102(107.8)	453(77.7)	77(95.1)	258(109.8)	43,873(110.4)
17	5,045(103.2)	4,299(104.8)	403(88.9)	66(85.7)	277(107.4)	46,293(105.5)
18	5,217(103.4)	4,425(102.9)	445(110.5)	56(84.9)	291(105.1)	47,193(101.9)

注「（）」は、対前年比

## II. 協会の動向概要

本年度は本会設立2年目を迎え、日本の“モノづくり”を支える鑄造業の体質を強化し、競争力を向上させ産業界と社会に貢献するとの事業方針の下に、次のとおり本格的な協会活動を展開した。

- (1) 平成18年4月27日に本会の設立の趣旨をユーザー業界始め広く関係者に理解願うために協会設立記念シンポジウム「鑄物が開く新世界—日本を支えるものづくり—」をホテルニューオータニにおいて開催した。
- (2) 平成18年5月18日に虎ノ門パストラルにおいて、第2回通常総会及び理事会を開催し、会長、副会長、理事、監事の選任を行った。
- (3) 総務部会、経営部会、技術部会、国際部会、中小企業部会の5部会では、委員会を開催し最新の市場動向や技術動向に関する情報交換、統計調査、鑄造技術研修会、ISO講習会、その他事業計画に沿った多くの事業活動を展開した。
- (4) 平成18年5月に出された素形材産業ビジョンをうけて、6月に鑄造産業ビジョン特別部会を設置し、11月末に今後10年間の協会活動の指針となる「鑄造産業ビジョン2006」を取り纏めた。又、全国各地で鑄造産業ビジョン2006」の周知を行った。
- (5) 中小企業でも導入が簡便にでき、適正な価格での販売に役立つ、製品1個あたりの製造原価を把握できる原価計算ソフトの開発を行った。
- (6) 鑄物工場の労働災害を防止するために、中央労働災害防止協会と協力して、リスクアセスメントマニュアルを作成し、平成19年1月から3月にかけて全国12カ所で研修を開催した。
- (7) 将来の鑄物工場の経営者や工場長の育成を目指した鑄造中核人材育成事業を日本鑄造工学会と連携して企画立案を行い、鑄造カレッジ（中部、近畿）の開設を行い、3月に受講生の募集を行った。
- (8) 平成18年度の戦略的基盤技術高度化支援事業に応募し、平成18年10月に3件の研究開発テーマを受託し、10月より研究開発を開始した。
- (9) 平成18年10月に札幌において、第2回秋季大会として経営講演会、技術講演会、工場見学会、懇親会を開催した。
- (10) 平成18年9月に、ドイツ鑄物工業会との定期協議、第4回国際鑄造フォーラムへ参加し、国際交流を促進した。また、11月に協会JFSアセアン鑄造産業視察団をベトナムに派遣した。
- (11) 平成19年1月16日から1ヶ月間にわたり国立科学博物館において開催されたMONODZUKURI展の実行委員会に参加するとともに、出展等に協力した。
- (12) 平成19年2月16日にメルパルク東京において、高騰が続く鉄スクラップ、副資材等の「原材料等のコスト増の転嫁、型保管費用の負担、重量に基づく値決め」の適正化を目的に「緊急鑄物業取引改善説明会」を開催した。
- (13) 中部支部は、支部会員を対象に総会、役員会、講演会、工場見学会を開催した。
- (14) 本会の機関誌として「鑄造ジャーナル」を毎月発行した。

### Ⅲ. 事業活動

#### 1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、通常総会1回、理事会5回、正副会長会10回、監事会1回それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 通常総会 平成18年5月18日(於、虎ノ門パストラルホテル)

第2回通常総会を開催し、平成17年度事業報告・同収支決算、18年度事業計画・同収支予算を審議・承認した。また、任期満了に伴う理事及び監事の選任等を行なった。

(2) 理事会の開催

第6回から第10回までの合計5回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

1) 第6回:平成18年5月18日(於、虎ノ門パストラルホテル)

2) 第7回:平成18年7月14日(於、機械振興会館)

3) 第8回:平成18年10月12日(於、札幌市教育文化会館)

4) 第9回:平成19年1月12日(於、メルパルク東京)

5) 第10回:平成19年3月23日(於、機械振興会館)

(3) 正副会長会の開催

第6回から第11回まで、臨時正副会長会4回、合計10回開催し、重要案件について審議した。

1) 第6回:平成18年4月12日(於、機械振興会館)

2) 第7回:平成18年6月9日(於、機械振興会館)

3) 第8回:平成18年7月14日(於、機械振興会館)

4) 第9回:平成18年9月5日(於、機械振興会館)

5) 第10回:平成18年12月8日(於、機械振興会館)

6) 第11回:平成19年2月9日(於、機械振興会館)

7) 臨時正副会長会

平成18年4月27日(ホテルニューオータニ)

平成19年1月12日(メルパルク東京)

平成19年3月15日(機械振興会館)

平成19年3月16日(機械振興会館)

(4) 監事会 平成18年4月20日(於、機械振興会館)

監事会を開催し、平成17年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行なった。

#### 2. 部会に関する事項

(1) 総務部会

1) 総務部会を2回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営(他の部会に属するものを除く)に関する事項について審議した。

第4回:平成18年7月13日(機械振興会館)

第5回:平成19年3月2日(機械振興会館)

2) 総務委員会を4回開催し、会費の見直し等について審議した。

第3回:平成18年7月13日(機械振興会館)

第4回:平成18年9月13日(機械振興会館)

第5回：平成18年11月29日（機械振興会館）

第6回：平成19年3月2日（機械振興会館）

(2) 経営部会・経営対策委員会

経営部会・経営対策委員会を3回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第5回平成18年6月22日（木）

第6回平成18年12月13日（水）

第7回平成19年3月2日（金）

(3) 技術部会

1) 技術部会を2回開催し、製品開発、製造技術開発等に関する事項について審議を行った。

第3回部会 平成18年7月4日（火） 機械振興会館

第4回部会平成19年3月9日（金） 機械振興会館

2) 平成18年度は、技術開発委員会の下に次の委員会を設置した。

①球状黒鉛鋳鉄の歩留まり向上委員会（委員長 菅野 利猛氏）

②技術データベース構築委員会（委員長 岡崎 清治理事）

(4) 国際部会

国際部会を3回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。国際部会に併せて国際委員会を開催し、鋳造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、参加有無の決定、海外鋳造団体とのネットワーク構築、海外鋳造業の実態調査、海外視察調査団の派遣等を推進した。

第1回平成18年4月12日（水） 機械振興会館

第2回 平成18年7月18日（火） コマツキャステックス株式会社「本社会議室」

第3回 平成19年1月29日（月） 水沢市鋳物技術交流センター「2階会議室」

株式会社及精鋳造所

(5) 中小企業部会

1) 中小企業部会を5回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

第4回 平成17年7月4日（火） 機械振興会館

第5回 平成18年9月26日（水） 機械振興会館

第6回 平成18年12月5日（火） 機械振興会館

第7回 平成19年2月16日（金） メルパルク東京

第8回 平成19年3月15日（木） 機械振興会館

2) 平成18年度は、次の委員会を設置した。

①中小企業ビジョン実現化委員会（委員長 大亀 右問氏）

### 3. 協会設立記念事業に関する事項

(1) 目的

本会設立の趣旨をユーザー業界始め広く関係者に理解願うために、協会設立記念事業としてシンポジウムを開催した。なお、本事業を実行するために、「社団法人日本鋳造協会設立記念事業実行委員会（委員長：児玉洋介副会長）」を設けて実施した。

(2) 開催日時：平成18年4月27日（木）12：00～19：30

シンポジウム 13：15～17：10

パーティー 17:30～19:30

展示会 12:00～18:00

(3) 開催場所：ホテルニューオータニ 〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町 4-1

シンポジウム会場：芙蓉の間

パーティー会場：鳳凰の間

展示会会場：芙蓉の間の前スペース

(4) 記念事業内容

1) 「鑄物が開く新世界—日本を支えるものづくり—」(参加人数：747人)

ユーザーと強力タッグを組めるベストパートナーとしての鑄造業界の取り組みと相互共存を標榜する「素形材産業ビジョン」の主旨、「鑄造技術指針」骨子についての理解を願うために、内外の関係者による講演及びユーザー業界も交えたシンポジウム・パネルディスカッションを実施した

○シンポジウム

基調講演 1. 「素形材産業政策の課題」 経済産業省製造産業局 局長 石毛 博行

基調講演 2. 「ベストパートナーを目指す鑄造業」 会長 加藤 喜久雄

特別講演 「グローバル市場におけるドイツ鑄造業の競争力」

ドイツ鑄物工業会 DGV 会長 アルノルト・カフラート

○パネルディスカッション

パネルディスカッションは、中江秀雄早稲田大学教授をコーディネーターに、供給側の鑄物業者からは酒井英行キャスト社長と中谷兼武コマツキャスト社社長が、需要家側からは酒井寿治日産自動車執行役員、森雅彦森精機製作所社長が、さらに経済産業省から前田泰宏製造産業局素形材産業室長が参加、鑄物業界が直面する課題や今後の展望について活発に意見交換した。

○展示コーナー

芙蓉会場の前スペースに展示コーナーが設けられた。

日本鑄造協会の概要、本シンポジウムの記念ポスターに迎えられて展示コーナーに入る。展示パネル以外に、鑄物製品、スピーカーや制御装置の実験モデルなど多岐にわたり、昔から使われてきた鑄物、今なければ困る鑄物、将来の夢や可能性が詰まっている鑄物が鉄系だけに限らず、アルミニウムといった非鉄系材料も多く出品されていた。さらに「プレスキャスティング」や「マイクロ鑄造」を初めとした新技術も紹介されていた。

○記念パーティー(参加人数：421人)

設立記念シンポジウム懇親会は、夕方5時半より「鳳凰の間」において、会員、ユーザー、来賓などが参加し、盛大に開催された。

#### 4. 鑄造産業ビジョンに関する事項

(1) 鑄造産業ビジョン特別部会を設置して、11月末に「鑄造産業ビジョン2006」を作成した。

(2) 委員会の活動

1) 鑄造産業ビジョン準備委員会 平成18年6月24日(土) 機械振興会館

2) 鑄造産業ビジョン特別部会

第1回 平成18年7月22日(土) 機械振興会館

第2回 平成18年9月16日(土) 機械振興会館

第3回 平成18年10月 3日(火) 機械振興会館

第4回 平成18年10月28日(土) 東京鑄物工業協同組合

第5回 平成18年11月21日(火) 機械振興会館

3) 中小企業鑄造業ビジョン実現化委員会

第1回 平成18年5月13日(土) 機械振興会館

第2回 平成18年7月21日(金) 機械振興会館

第3回 平成18年8月26日(金) 機械振興会館

第4回 平成18年11月21日(火) 機械振興会館

(3) 鑄造産業ビジョン2006の周知

「鑄造産業ビジョン2006」を素形材産業ビジョン委員会へ報告するとともに、全国7カ所で同ビジョンの概要を説明し、意見交換会を開催した。又、ホームページも掲載した。

5. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 秋季大会の開催

平成18年10月12日～14日に、札幌において第2回秋季大会を開催し、講演会、懇親会、工場見学会、懇親ゴルフを実施した。参加人数は、130名であった。

1) 講演会 ①日時 平成18年10月12日(木) ②場所 札幌市教育文化会館

演題	講演者	所属
ムライト系球状人工砂の適用事例	松原 眞 高橋 陽	伊藤忠セラテック(株)部長
鑄造技術の革新を目指して—技術部会活動概要—	木村 博彦	技術部会部会長 (株)木村鑄造所社長
寒冷地水抜栓の開発とこれからの課題	井上 一郎	(株)光合金製作所会長
鑄鋼品の品質向上とIT活用	津村 治	(株)日本製鋼所部長
全員参加による品質向上活動	佐藤 孝造	佐藤鑄工(株)専務取締役
環境に配慮した新しい鑄造商品の紹介	仲井 茂夫	花王クエーカー(株)室長
中小企業の経営改革—業務のIT化—	加藤 弘之 小林 龍彦	(株)カトー 社長 常務取締役
北海道鑄物産業における中核人材育成プロジェクト	桃野 正	室蘭工業大学教授
現場は生きている—モノづくりの原点—	中島 末男	トヨタ自動車(株)副課長

2) 工場見学会 日時 平成17年11月11日(金)

	見学先		参加人数
1班	光合金製作所	札幌高級鑄物	19
2班	森川鉄工	佐藤鑄工	27
3班	日本製鋼所室蘭製作所	トヨタ自動車北海道	29

3) 懇親ゴルフ大会 参加人数 8名

①日時 平成18年10月14日(土)

②場所 ANAダイヤモンドゴルフクラブ

(2) 新年賀詞交歓会 平成19年1月12日(金)

会員の情報交換及び懇親を目的に、「新年賀詞交歓会」をメルパルク東京(港区)に於いて開催した。賀詞交歓会に先立って、「ものづくり改革のためのTPM(総合生産保全)」と題した講演会を開催した。賀詞交歓会には、行政、学会、関係団体からの招待を含めて230名の参加があった。

(3) 平成18年度青年部全国大会の開催

11月9日(木) 東京都港区の世界貿易センタービルで青年部全国大会講演会、情報交換

会、10日（金）工場見学会を開催した。各組合青年部員（若手後継者）が51名出席

1) 講演会

- 「静圧ラインへの配湯方法合理化改善」 日本鋳鉄管(株)鉄蓋製造部 渡辺久義氏
- 「大型トラック用ヘッド増産対応職場改善事例の報告」 日産ディーゼル工業(株) 森雅雄氏
- 「素形材産業ビジョンについて」 経済産業省製造産業局素形材産業室 根岸寿実氏
- 「鋳造産業ビジョンについて（概要説明と意見交換会）」 副会長 酒井英行

2) 情報交換会 世界貿易センタービル39階 東京會館

(4) ISO講習会 参加者39名

ISO取得促進のために現場研修会および工場見学会を平成19年2月16日（金）利根鉄工(株)、ジャパンメタル(株)において開催した。

(5) リスクアセスメント研修会 出席者数：432人

実施地区	○開催組合（開催地）	開催日
北海道	○北海道（札幌）	平成19年2月28日（水）
東北地区（岩手県）	○水沢、山形（水沢）	1月25日（木）
関東地区（埼玉県） （新潟県）	○川口（川口）	1月26日（金）
	○東京、群馬、城南、長野、中越（東京）	2月16日（金）
中部地区（愛知県） （三重県） （静岡県）	○愛知、西尾、碧南、三重（名古屋）	1月30日（火）
	○岐阜、（岐阜）	2月13日（火）
	○静岡（静岡）	3月5日（月）
北陸地区（石川県）	○石川、富山、福井（石川）	2月1日（木）
近畿地区（大阪府）	○大阪、浪速、京都、和歌山、奈良（大阪）	2月19日（月）
中国地区（広島県）	○広島、岡山、島根、福山（広島）	1月30日（火）
四国地区（愛媛県）	○愛媛、香川、高知（愛媛）	1月26日（金）
九州地区（福岡県）	○全九州、熊本（福岡）	3月6日（火）

(6) 取引ガイドライン説明会

経済産業省、(財)全国中小企業取引振興協会及び当協会を含む素形材団体が主催で、素形材産業取引改善セミナーを2月に東京、名古屋、大阪で開催した。参加人数は、名古屋106名、東京145名、大阪97名

(7) 鋳造業界と鋳物用原材料関係者との情報交換会の開催 平成18年5月29日（月）

鋳物用原材料の安定供給確保を目的とした、鋳物業と原材料関係者が需要に関する情報を共有する情報交換会（機械振興会館）

(8) 「緊急 鋳物業取引改善説明会・情報交換会」の開催 参加人数161名

平成19年2月16日（金）メルパルク東京において、鋳物業会員の取引改善のために「素形材産業取引ガイドライン策定委員会報告書」の内容と原材料の動向についての説明会と情報交換会を開催した。

## 6. 鋳造業の経営改善・振興対策に関する事項

(1) 原価計算モデル委員会の活動

適正な価格での販売に役立つ、製品1個当りの製造原価を把握できる計算システムを会員に提供するための委員会を6回開催した。

- 1) 第1回平成18年7月19日（水） 愛知県鋳物工業協同組合会議室
- 2) 第2回平成18年8月25日（金） 愛知県鋳物工業協同組合会議室
- 3) 第3回平成18年9月22日（金） (株)マツバラ 会議室
- 4) 第4回平成18年11月15日（水） (株)クボタ中部支社 B会議室

5) 第5回 平成18年12月8日(金) 愛知県鋳物工業協同組合会議室

6) 第6回平成19年3月29日(木) ㈱クボタ中部支社 B会議室

(2) 銑鉄鋳物経営者・営業者委員会の活動

銑鉄鋳物製造会社の経営者・営業関係者による市場情報、経営状況、経営課題等の地区別情報交換会を東京、名古屋、大阪で8月、3月にそれぞれ2回開催

(3) バランスウエイト委員会の活動

バランスウエイト製造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に名古屋において7月と12月に2回開催

(4) 工作機械用鋳物委員会の活動

(社)日本工作機械工業会による市場動向の講演と工作機械用鋳物製造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に1月に開催

(5) 精密鋳造業務委員会の活動

精密鋳造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催。

## 7. 鋳造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

(1) 鋳物産業振興議員連盟への要望・陳情

鋳造業に関する諸施策・税制等について鋳物産業振興議員連盟へ陳情書を提出し、鋳物産業振興議員連盟議員との懇談会において決議文が発表された。

1) 鋳物産業振興議員連盟役員との打合せ会

①日時 平成18年8月3日(木) 12時～13時

②場所 キャピトル東急ホテル2階「ことぶき」

③議題 1. 銑鉄鋳物業界の現状について  
2. 今後の「鋳物産業振興議員連盟」との対応について

2) 第9回鋳物産業振興議員連盟議員との懇談会

①日時 平成18年10月24日(火) 午後12時～1時

②場所 自由民主党本部「901号室」

③議題 1. 銑鉄鋳物業界の現状について  
2. 税制・施策陳情について

3) 陳情内容

### 記

#### I. 施策関係

##### 1. 戦略的基盤技術高度化支援事業の強化

サポーティング・インダストリーとしての鋳造業の技術開発等を促進するため戦略的基盤技術高度化支援事業の予算等の強化について支援して頂きたい。

##### 2. 取引慣行の適正化

鋳造業の国際競争力の強化のため、現在、政府において「素形材産業取引ガイドライン策定委員会」が設置され、取引慣行改善のためのガイドライン策定に向けた検討が行われているので下記の事項等については是正を図って頂きたい。

①鋳物製品の重量取引から付加価値を加味した単品取引へ

②模型保管・廃却費用負担等の適正化

③量産終了後の追加発注による補給品価格の適正化

④原材料・副資材等のコストアップ分の製品価格への転嫁

### 3. 外国人研修生・技能実習期間3年を5年に延長

現行の3年間では十分な技能の修得が進まないため、本人と受入れ側の双方が、より高度な技能習得を希望する際には、再度入国して2年間技能実習を受けられるよう、定着化の防止等にも留意しつつ、制度化を図って頂きたい。

### 4. 鋳物用銑鉄、スクラップ、コークス、副資材等の確保・価格安定等の継続

鋳物用銑鉄、スクラップ、コークス、副資材等については、不安定な海外の供給事情を考慮すると、海外調達に依存しているため鋳物経営者にとって不安定な経営となることが心配される。

将来的にも、安定した鋳物生産を維持していく上で、原材料の確保と価格安定について支援して頂きたい。

## II. 税制関係

### 1. 減価償却制度の抜本的見直し

「償却可能限度額」を撤廃し、全額償却可能とするとともに、償却年数を諸外国に劣らないものに見直しを講じて頂きたい。

### 2. 事業承継の円滑化

中小企業の事業承継に関しては様々な課題が存在しており、特に重要な非上場株式の相続税負担について、後継者が非上場の自社株式を保有している間は課税を猶予する等の方法により、事業を承継する者の税負担の減免を講じて頂きたい。

### 3. 留保金課税の撤廃

中小企業にとって不可欠な内部留保の充実を図るため、特定同族会社の留保金課税制度の撤廃を講じて頂きたい。

### 4. 適用期限の到来する次の租税特別措置等を延長すること。また、適用期限の到来しない国税の特別措置、地方税の特例措置の廃止・縮減は行わないこと。

(1) 中小企業等基盤強化税制

### (2) 国税・地方税の要望・陳情

「平成18年度税制改正に関する鋳物業界の要望」について、関係官庁並びに自由民主党政務調査会に要望書を提出し、陳情した。(鋳物関連2団体連名の要望書による。)

- 1) 平成18年 9月25日(月) 自由民主党政務調査会税制調査会に提出
- 2) 平成18年11月 2日(火) 自由民主党経済産業部会、商工・中小企業関係団体委員会において要望

## 記

### 1. 減価償却制度の抜本的見直し

「償却可能限度額」を撤廃し、全額償却可能とするとともに、償却年数を諸外国に劣らないものに見直しを講じて頂きたい。

### 2. 事業承継の円滑化

中小企業の事業承継に関しては様々な課題が存在しており、特に重要な非上場株式の相続税負担について、後継者が非上場の自社株式を保有している間は課税を猶予する等の方法により、事業を承継する者の税負担の減免を講じて頂きたい。

### 3. 留保金課税の撤廃

中小企業にとって不可欠な内部留保の充実を図るため、特定同族会社の留保金課税制度の撤廃を講じて頂きたい。

### 4. 適用期限の到来する次の租税特別措置等を延長すること。また、適用期限の到来しない国税の特別措置、地方税の特例措置の廃止・縮減は行わないこと。

(1) 中小企業等基盤強化税制

## 8. 中小企業振興に関する事項

### (1) 組合理事長会の活動

- 1) 第4回平成18年5月17日機械振興会館
- 2) 第5回平成18年7月4日(火) 機械振興会館
- 3) 第6回平成18年9月26日(水) 機械振興会館
- 4) 第7回組合理事長会平成18年10月24日(火) 自由民主党本部
- 5) 第8回組合理事長会平成18年12月5日(火) 機械振興会館
- 6) 第9回平成19年2月16日(金) メルパルク東京
- 7) 第10回平成19年3月15日(木) 機械振興会館

### (2) 組合事務局長会の活動

- 1) 第2回平成18年6月15日(木) 機械振興会館
- 2) 第3回平成18年11月22日(火) 機械振興会館

### (3) 若手後継者委員会の活動

- 1) 第5回平成18年5月12日(金) 機械振興会館
- 2) 第6回平成18年7月5日(木) 愛知県鋳物工業協同組合会議室
- 3) 第7回平成18年10月6日(金) 機械振興会館
- 4) 第8回平成18年12月26日(火) 機械振興会館

## 9. 指導・教育・人材育成に関する事項

### (1) 人材育成委員会の活動

- 1) 第1回平成18年4月5日(水) 機械振興会館
- 2) 第2回平成18年7月6日(木) (株)クボタ教育センター
- 3) 第3回平成18年8月23日(水) 機械振興会館
- 4) 第4回平成18年11月7日(火) 機械振興会館
- 5) 第5回平成19年2月7日(水) 機械振興会館

- (2) 日本鋳造協会鋳造中核人材育成事業実行準備委員会・日本鋳造工学会人材育成委員会(仮称) 合同委員会の活動
  - 1) 第1回 平成18年12月19日(火) 機械振興会館
  - 2) 第2回平成19年2月26日(月) 機械振興会館
- (3) 鋳造中核人材育成事業実行委員会の活動
  - 1) 第1回 平成19年2月26日(月) 機械振興会館
- (4) 鋳造中核人材プロジェクトの日本鋳造協会への移行検討会議の活動
  - 1) 第1回 平成18年5月10日(火) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年11月7日(火) 機械振興会館
- (5) 自立化拠点構築WGの活動
  - 1) 第1回平成18年6月14日(水) 名古屋安保ホール
  - 2) 第2回 平成18年8月10日(水) (株)クボタ教育センター
  - 3) 第3回 平成18年10月31日(火) クボタ教育センター
- (6) 技術普及分科会の活動
  - 1) 第1回 平成18年5月15日(月) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年7月31日(月) 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成18年9月25日(月) 機械振興会館
  - 4) 第4回 平成18年10月23日(月) 機械振興会館
  - 5) 第5回平成19年1月29日(月) 機械振興会館

## 10. 技術開発に関する事項

- (1) 技術開発委員会の活動
  - 1) 第1回 平成18年4月12日(水) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成19年2月2日 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成19年2月26日 機械振興会館
- (2) 球状黒鉛鋳鉄の歩留まり向上研究委員会
  - 1) 第1回平成18年4月4日(火) 機械振興会館
  - 2) 第2回平成18年6月16日(金) 機械振興会館
  - 3) 第2回平成18年9月13日(水) 機械振興会館
  - 4) 第4回 平成18年12月20日(水) 機械振興会館
  - 5) 第5回 平成19年3月9日(金) 機械振興会館
- (3) 技術データベース構築委員会
  - 1) 第1回 平成18年6月23日(金) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年7月27日(木) 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成18年9月15日(金) (株)木村鋳造所
  - 4) 第4回 平成18年11月21日(月) 機械振興会館
  - 5) 第5回 平成19年2月19日(月) 機械振興会館
- (4) 鋳型技術委員会の活動
  - 1) 第1回平成18年4月18日(金) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年6月9日(金) 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成18年8月11日(金) 機械振興会館
  - 4) 第4回 平成18年10月6日(金) 機械振興会館
  - 5) 第5回 平成18年12月15日(金) 機械振興会館

- 6) 第6回日時 平成19年3月16日(金) 機械振興会館
- (5) 精密鑄造技術委員会の活動
- 1) 第1回平成18年5月12日(金) ニュー新橋ビル
  - 2) 第2回平成18年8月25日(金) ニュー新橋ビル
  - 3) 第3回 平成18年11月10日(金) ニュー新橋ビル
  - 4) 第4回平成19年2月9日(金) 東京・北トピア
- (6) キュポラ操業研究懇談会の活動
- 1) 第1回 平成18年4月20日(木) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年7月13日(木) 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成18年10月20日(木) 日本鑄鉄管(株)久喜菖蒲工場
  - 4) 第4回 平成19年1月18日(木) 機械振興会館
- (7) 戦略的基盤技術高度化支援事業の実施
- 平成18年度戦略的基盤技術高度化支援事業として以下の3件を提案し採択されたので、これらの技術開発を推進するために、事務局に戦略的基盤技術開発室を設置し、技術開発を実施した。
- 1) 鑄物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的なパワーアシスト装置の開発  
契約期間:平成18年10月25日～平成19年3月30日  
委託金額:59,387,000円
  - 2) 鑄鉄溶湯の不純物除去と無害化技術の開発  
契約期間:平成19年1月4日～平成19年11月30日  
委託金額:126,394,800円
  - 3) 精密鑄造品高度化に向けた造型技術の開発  
契約期間:平成19年1月4日～平成19年11月30日  
委託金額:114,184,350円

## 1.1. 標準化に関する事項

- (1) 標準化委員会の活動
- 1) 第1回 平成18年5月11日(金) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年10月17日(木) 機械振興会館
  - 3) 第3回 平成19年2月16日(金) 利根鉄工(株)、ジャパンメタル(株)
  - 4) 第4回 平成19年2月27日(火) 機械振興会館

## 1.2. 知的財産権の保護及び推進に関する事項

鑄造技術に関する特許情報の収集に努め、鑄造ジャーナルに科学技術文献速報、特許情報を毎月掲載した。

## 1.3. 労働安全衛生及び環境保全対策に関する事項

- (1) 環境安全対策委員会の活動
- 1) 第1回平成18年5月11日(火) 機械振興会館
  - 2) 第2回 平成18年9月7日(木) コマツキャステックス(株)氷見工場
  - 3) 第3回平成19年2月7日(水) 機械振興会館
- (2) 鑄造業における環境安全対策の推進
- 1) リスクアセスメント事業の推進(中央労働災害防止協会事業への協力)
  - 2) リスクアセスメントマニュアル作成

3) リスクアセスメントの普及活動（全国12地区において研修を実施）

○中央労働災害防止協会 ○厚生労働省 ○経済産業省 ○安全衛生専門家

#### 1 4. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会の活動

- 1) 第4回 平成18年6月22日（木） 機械振興会館
- 2) 第5回 平成18年12月13日（水） 機械振興会館

(2) 調査項目

- ①需要予測調査
- ②製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の調査と解析
- ③鋳物用銑鉄の需要調査
- ④原材料、副資材価格動向調査
- ⑤景気動向調査
- ⑥倒産、転業、廃業、休業調査
- ⑦海外の鋳物製品価格等の調査
- ⑧外国人研修生・実習生実態調査

#### 1 5. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

(1) 広報事業

- 1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鋳造ジャーナル」を毎月、12回発行した。
- 2) ホームページによる協会事業の紹介、各種情報の提供、会員データベースによる会員のPR等情報発信強化を図った。またE-メールを活用した双方向の情報流通の手段として、メーリングリストの準備を行った。
- 3) 視察団報告および海外進出工場（会員）名簿を発行した。
- 4) 新聞・雑誌等に業界PR記事の提供
  - ①日本鋳造協会設立を広く関係者に周知するために、日本経済新聞（1／2頁）及び日刊工業新聞（1頁）に協会設立広告を掲載した。
  - ②報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者会見を行い、資料の提供等取材に協力。
- 5) 需要業界における各種調査研究資料の提供
- 6) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供
- 7) その他、業界発展のための広報・情報活動

(2) 普及啓蒙事業

- 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務（コンサルタント斡旋等）
- 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
- 3) 小中高生の鋳物工場見学受け入れ、鋳物教室開催等

(3) 情報の提供

- 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供
- 2) 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
- 3) 内外の関係情報の提供

#### 1 6. 国際交流に関する事項

(1) 日独定期協議

- ①2006年4月27日（木）、ドイツ鋳物工業会（DGV）のアーノルドカフラート会長

と第1回日独定期協議を開催した。

②第2回日独定期協議をIFF参加に併せて、2006年9月25日(月)デュッセルドルフと同年9月30日(土)カスカイスで開催した。

(2) EIFC参加および講演

2007年5月21日(日)～24日(水)、「欧州精密鑄造連盟50周年記念大会」(スペイン/ビルバオ)に参加し、講演を行った。

(3) 第4回国際鑄造フォーラム (IFF2006)

IFF2006(ポルトガル/リスボン近郊のカスカイス)が2006年9月28日(木)、29日(金)の両日開催され、加藤喜久雄会長以下11名が参加した。なお加藤会長は「日本の鑄造産業の動向」についての講演を行った。

(4) ICI2006

第54回ICIテクニカルコンファレンス&エキスポが、2006年10月22日(日)～25日(水)、米国ミルウォーキーで開催され、那須征雄氏(JFS精密鑄造技術委員会委員長)が参加した。

(5) アセアン鑄造産業視察団(ベトナム)

平成18年11月26日(日)～12月3日(日)の8日間、アセアン視察第2弾としてベトナムの鑄造技術の現状と工場視察を実施した。参加人員は31名

## 17. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考

日本鑄造協会の協会賞として、6月に安全衛生標語賞の募集、11月に功労賞、技術賞、小林英三賞、滝沢賞の募集を行い、選考を行った。

## 18. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

(1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋

(2) 工場視察、見学会の斡旋

(3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与

(4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

## 19. 支部に関する事項

(1) 中部支部事業

1) 支部総会を6月に開催、役員会を6月、3月の2回開催、講演会6月に開催、講演会協賛を5回実施。

2) 地区外工場見学会として、平成18年11月30日(木)～12月1日(金)に、東北地区の工場見学を実施した(参加者34名)

## 20. 関係官庁への協力

(1) 素形材産業ビジョン策定委員会

経済産業省が、平成17年12月に、サポーティングインダストリーといわれている素形材産業を強化するために設置した素形材産業ビジョン策定委員会の鑄造業界代表委員として、本会の加藤会長が委員として参加、協力した。

(2) 素形材産業取引ガイドライン策定委員会

経済産業省は、素形材産業ビジョンで提唱された素形材産業の取引慣行改善を促進するた

めに設置した素形材産業取引ガイドライン策定委員会の鑄造業界代表委員として、本会の酒井副会長が委員として参加、協力した。

(3) 平成19年1月16日から1ヶ月間にわたり国立科学博物館において開催されたMONODZUKURI展の実行委員会に本会の加藤会長が参加するとともに、会員企業が出展等に協力した。

(4) 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対し、職種「鑄造（鑄鉄鑄物鑄造作業）」に7名の委員を推薦した。

## 2.1. 関係団体との交流に関する事項

(1) 関係業界団体との交流

1) 平成18年5月17日（水）自動車会館会議室にて、社団法人日本自動車工業会と関連団体との懇談会を開催した。本会からは加藤会長が出席した。

(2) 素形材関連団体連絡会・鑄団連

1) 経済産業省と素形材関係団体間の連絡の円滑化、情報交換を目的とした「素形材関係団体連絡会」に毎月出席した。

2) 鑄団連総会に出席した。

(3) 鑄物関連団体への協力

1) (社)日本鑄造工学会の春・秋大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。

2) (財)素形材センターの素形材月間事業への後援。

3) ダイカストマシン工業会主催のセミナーへの後援他。

## 2.2. 会員の叙勲及び国家褒章の受章候補者の推薦に関する事項

18年春の藍綬褒章に関して、田中副会長が授賞された。

## 2.3. 組織拡充強化に関する事項

(1) 協会パンフレットを作成し、組織の拡充強化を図るため未加入の企業、組合の加入を促進した。

(2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。

## 2.4. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

(1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

## 2.5. 会員及び組織に関する事項

(1) 正会員及び賛助会員（平成19年3月31日現在）

1) 法人正会員 329

2) 団体正会員 33組合（634社）

3) 賛助会員 29